

□原著論文□

女性脊髄障害者の産婦人科的健康問題に関する研究

道木 恭子* 古谷 健一**
牛山 武久*** 永松 秀樹*** 堀 達之****

抄 録

女性脊髄障害者 81 名を対象として産婦人科の問題に関する後方視的調査を実施した。結果、一般では減少傾向にある「膣感染症」が 61 名 (75%) と最も多く、脊髄障害者において膣感染症が多いことから、膣洗浄による治療効果について検討した。

洗浄は 10%ポピドンヨード 50 倍希釈液を用い、2 週間に 1 度の間隔で実施した。その結果 5 例中 4 例において、膣分泌物中の細菌の減少傾向が認められ、外陰部の発赤、びらん、悪臭など自覚症状も軽減した。

本研究から、膣感染症に対する洗浄の有効性および女性脊髄障害者の健康問題に関する医療者の理解と当事者に対する知識の普及の必要性が示唆された。

Gynecological Issues in Women with Spinal Cord Disorders

DOUKI Kyoko FURUYA Kenichi
USHIYAMA Takehisa NAGAMATSU Hideki HORI Tatsuyuki

Abstract

Women with spinal cord disorders frequently suffer from diseases of the primary and secondary sex organs such as the uterus and breast. However, little information is available regarding these health issues, and awareness remains limited. The purpose of the present study was to assess the gynecological problems experienced by women with spinal cord disorders.

Subjects : Eighty-one women with spinal cord disorders who visited the Department of Gynecology of the National Rehabilitation Center for the Disabled during the 12-year period from January 1992 to May 2004 were studied.

Methods : The patients' demographic characteristics, reasons for visiting the hospital, and diagnoses were retrospectively reviewed.

Results: Sixty-one patients (75%) were found to have vaginitis, 14 patients (17%) had ovulation problems, and 9 patients (11%) had uterine fibroids.

Discussion: The incidence of vaginitis has recently been falling, but it remains a serious problem in patients with spinal cord disorders. The results of the present study indicate that patients with spinal cord disorders are at high risk of developing vaginitis. Patients should be aware that early diagnosis and treatment are necessary and that physiological phenomena such as menstruation, pregnancy, delivery, and menopause are important health issues.

Conclusion: It is essential for healthcare professionals to be aware of the gynecological problems experienced by women with spinal cord disorders and to educate their patients.

Keywords: spinal cord disorders (脊髄障害), female (女性), vaginitis (膣感染症)

受付日 : 2004 年 8 月 30 日 受理日 : 2004 年 10 月 27 日

*国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 リハビリテーション学分野 博士課程

Division of Rehabilitation, Doctoral Program in Health Science, International University of Health and Welfare Graduate School

E-mail : kyoko-d@rivo.mediatti.net

**防衛医科大学校病院 産婦人科

National Defense Medical College Hospital (Gynecology)

***国立身体障害者リハビリテーションセンター病院

Hospital, National Rehabilitation Center for the Disabled (Urology)

****国立国際医療センター整形外科

International Medical Center of Japan (Orthopedics)

I. はじめに

救急医療の進歩によって脊髄障害者の生命予後は改善され、性に関する QOL の向上が次にくる重要な課題として認識されつつある。男性脊髄障害者の性機能障害は、生殖に関わる重要な問題であるという認識から、男性脊髄障害者の性機能の研究は男性に焦点が置かれていた (Waxman, 1994)。一方、女性脊髄障害者の性機能は女性ホルモンの影響を強く受けていることから、脊髄の障害が直接的には関与しないと捉えられ、社会的にも女性障害者は、性とは無関係の存在であることが暗黙の了解とされてきた (Fine, 1988)。また、一般女性に比べて産婦人科の受診率が低いため (Nosek, 1997)、産婦人科領域における詳細なデータが少なくいことも事実である。欧米では、脊髄障害者の「妊娠・出産」に関する研究が近年増えてきているが (Baker, 1992, Westgren, 1993, Verduin, 1986)、婦人科疾患に関する研究は少ない。本邦においても「妊娠・出産」に関する研究 (長谷川ら, 1995, 石松ら, 1997, 吉田ら, 2003, 道木ら, 2003) および、女性脊髄障害者の性行動に関するアンケート調査 (百瀬ら 1998, 木元ら 2003) は散見できるが、婦人科疾患に関する研究はみられない。今回、このような状況をふまえ、女性脊髄障害者に対する援助の示唆を得るため、婦人科的健康問題に関する調査を実施した。調査の結果、膣感染症を発症している女性が多かったことから、膣感染症に対する膣洗浄の効果について検討した結果もあわせて報告する。

本研究は、国立身体障害者リハビリテーションセンター倫理委員会の承認を得たものである。また、対象者のうち膣洗浄を実施した者は、治療としての膣洗浄について説明した上で、本研究の目的、研究内容、結果報告などについて説明し、同意を得られた者である。

II. 方法

1. 対象

対象は、1992年1月から2004年7月にかけて、国立身体障害者リハビリテーションセンター病院産婦人科外来を受診した女性脊髄障害者81名である。初診時の年齢は18歳から72歳で、平均年齢は36.1(±10.3)歳であった。障害名は外傷性の脊髄損傷が78名(頸髄損傷30名、胸髄損傷42名、腰髄損傷6名)、二分脊椎症が3名であった。

2. 方法

1) 診療記録を用いた後方視的調査

1992年1月から2004年7月までの、国立身体障害者リハビリテーションセンター病院産婦人科診療記録から、受診目的と診断結果、および治療経過に関するデータを収集した。

2) 生物生理学的データの収集(微生物学的測定)

膣分泌物の増加している者が多いことから、分泌物中の菌種を把握するため、細菌検査を実施した。また、2003年4月から膣感染症の患者計5名に対し膣洗浄を実施し、膣分泌物中の細菌種および、分泌物の量と悪臭の状態、陰部発赤などを膣洗浄の前後で比較した。

膣洗浄には、10%ポピドンヨード液を生理食塩液で50倍に希釈したものを用いた。洗浄方法は、対象者の膣内の分泌物をスワブシードに採取した後、滅菌乾ガーゼで軽く分泌物を除去し、希釈消毒液に浸しておいた滅菌ガーゼを膣内に約30秒間挿入し、取り出す手技を用いた。この洗浄方法を2週間に1度の間隔で実施し、初回洗浄時のみ、抗生剤膣錠を挿膣した。また、膣分泌物中の菌種と尿中の菌種の関連性を検討する目的で、導尿によって採取した尿の細菌検査も実施した。

III. 結果

1. 産婦人科領域における健康問題

1) 受診目的

表1に示すように、対象者における産婦人科受診目的は「帯下の増加」、「帯下の強臭」、「帯下の色調の変化」など膣分泌物に関する相談が33名(41%)と最も多かった。次いで「不正出血」、「月経不順」、「子宮筋腫疑い」、「下腹痛」、「貧血」など婦人科疾患に関する相談が27名(33%)、「不妊相談」は7名(9%)、「妊娠検査」が6名(7%)となっていた。また、子宮癌などの「検診目的」は6名(7%)で、その他2名は乳がん検査希望のため、乳腺外来を標榜している病院を紹介した。

表1 女性脊髄障害者の産婦人科受診目的

受診目的	人数 (%) n=81
膣分泌物に関する相談 帯下の増加・強臭・色調	33名 (41%)
婦人科疾患の相談 月経不順・無月経・子宮筋腫など	27名 (33%)
不妊相談	7名 (9%)
妊娠検査	6名 (7%)
検診目的 (子宮癌など)	6名 (7%)
その他 (乳癌検診)	2名 (2%)

2) 診断結果

表2に示すように、対象者における産婦人科診断結果は「膣感染症」が61名(75%)と最も多かった。しかも膣感染症は20歳代から70歳代までの全ての年齢層に認められた(図1)。次いで、「排卵障害」14名(17%)、「子宮筋腫」9名(11%)などがあげられ、40歳代からは「子宮筋腫」、「ポリープ」などの増加傾向が認められた。

3) 膣分泌物細菌検査結果

膣感染症者61名の膣分泌物細菌検査を行ったところ、「カンジダ膣炎」が22名(27%)、「MRSA」が4名(5%)であった。その他の細菌として *Enterococcus*, *Staphylococcus*, *Streptococcus* などのグラム陽性菌, *Pseudomonas*, *Klebsiella*, *Serratia*

表2 女性脊髄障害者の産婦人科診断結果

診断	人数 (%) n=81
膣感染症	61名 (75%)
排卵障害	14名 (17%)
子宮筋腫	9名 (11%)
卵巣嚢腫	3名 (4%)
子宮内膜症	1名 (1%)
ポリープ	4名 (5%)
妊娠	6名 (7%)
異常なし	3名 (4%)

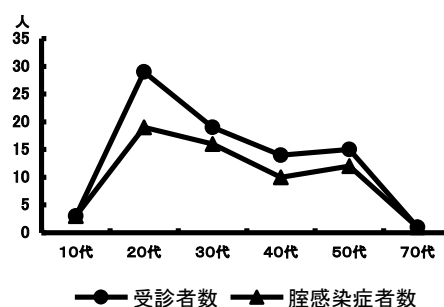


図1 年齢別受診者数と膣感染症発症者数

などのグラム陰性菌が検出された。

2. 膣洗浄後の膣分泌物の変化

1) 膣洗浄後の膣分泌物の変化

図2に膣感染症者5名の膣洗浄前後における膣分泌物の変化を示した。2回~3回の膣洗浄後の膣分泌物の変化を調べた結果、洗浄前はカンジダ膣炎が3名であったが、洗浄によって3名とも yeast 菌(カンジダ)は検出されなくなった。また、細菌数、分泌物量とも減少した。外陰部の発赤については、洗浄前は3名に認められていたが洗浄後は3名とも軽減し、悪臭は5名とも軽減した。

2) 膣洗浄後の尿の細菌検査結果

膣分泌物中の細菌と、尿中細菌との関連性をみるため、膣分泌物の細菌検査とあわせて尿中の細菌検査を実施した。膣洗浄後に膣分泌物中の細菌

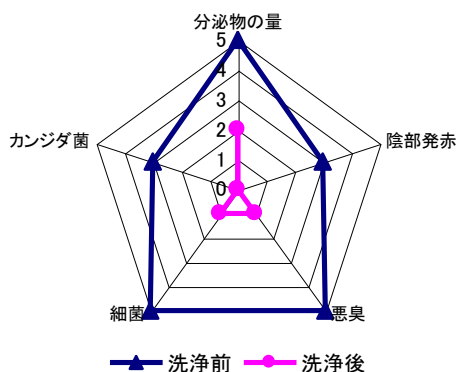


図2 膣洗浄前後での膣分泌物の比較

数の減少が認められた症例においても、尿中の細菌数の減少傾向は認められず、膣分泌物の菌種と尿中の菌種は異なっていた (表3)。

IV. 考察

1. 産婦人科領域における健康問題

一般女性では月経異常，不正出血などを産婦人

科の受診目的とすることが多いのに対し，女性脊髄障害者においては，「膣分泌物に関する相談」が最も多いという特徴がみられた。

Jackson (Jackson, 1999) は脊髄損傷者 472 名に対する面接調査から，受傷前は受傷後に比べて性感染症の発症率が高く，受傷後は膣感染症の発症率が若干ではあるが高い傾向が認められ，他は受傷の前後で特に大きな違いは認めなかったと報告している。一方，今回の結果においては，膣感染症を発症している女性は 75% と多く，一般病院の産婦人科外来において「膣感染症」は 15% 程度 (真木, 1992) であることからみても，女性脊髄障害者は膣感染症のリスクが高いことが明確に示されたといえる。本来，膣には自浄作用があることから通常は細菌が膣内に挿入しても感染することは少ないが，膣内の pH 値の変動，免疫力低下，ホルモンバランスの乱れなどが生じた場合は，膣感染症として発症する場合がある。脊髄障害者は車椅子乗車時間が長いことから陰部が湿潤状態にあり，

表3 洗浄前後の膣分泌物中と尿中の細菌検査結果

		洗浄前	洗浄後1回目	洗浄後2回目	洗浄後3回目
症例 A 35歳 C4	膣	Candida albicans	Candida albicans Lactobacillus	菌認めず	菌認めず
	尿	Enterococcus	Enterococcus	Enterococcus	Enterococcus
症例 B 25歳 C6	膣	Candida albicans MSSA 3+ Enterococcus Morganella	Candida albicans MSSA	菌認めず	菌認めず
	尿				
症例 C 35歳 二分脊椎	膣	E-coli	E-coli	E-coli	菌認めず
	尿	E-coli Streptococcus	E-coli Streptococcus	E-coli Streptococcus	E-coli Streptococcus
症例 D 29歳 L1	膣	Candida albicans Enterococcus Lactobacillus	菌認めず	菌認めず	菌認めず
	尿	E-coli	E-coli	E-coli	E-coli
症例 E 42歳 C5	膣	MRSA Enterococcus Klebsiella	Enterococcus Klebsiella Streptococcus	Enterococcus Klebsiella E-coli	退院のため未検査
	尿	MRSA Morganella morganii Seratia Pseudomonas	Seratia Pseudomonas	Seratia Pseudomonas	退院のため未検査

尿便失禁、自己導尿あるいは尿道へのカテーテル留置などから感染を起こしやすい状態といえる。さらに、尿路感染症などに対する抗生剤の頻回の使用も菌交代現象をおこすリスクとしてあげられる。また、外傷性の脊髄損傷者においては受傷による精神的ダメージ、急激な自律神経機能の変調なども大きく影響していると考えられる。

「膣感染症」は放置すると炎症が子宮や卵管、卵巣まで及ぶこともある(井口, 2003)。また、大腸菌などの感染がある場合は悪臭が強く、下着を汚し、外陰部びらんの原因となるなど女性としてのQOLに大きく影響することから適切な治療が必要である。

女性脊髄障害者の産婦人科受診時の診断結果で2番目に多かったのは「排卵障害」である。外傷性の脊髄損傷者の場合、受傷後に一時的に無月経になる場合があるが、この無月経は3ないし6ヶ月で再開する(Jackson, 1999)といわれている。しかし6ヶ月以上月経が回復しない場合も、痛みなどの自覚症状がないことに加え月経に伴う不快症状あるいは月経血処理の「わずらわしさ」がないことから受診しない場合がある。無月経の継続は一般女性においても卵巣の機能低下を生じる危険性があることから(井口, 2003)、適切な診断と治療が必要である。受傷直後は月経に関する問題意識を持ってない場合が多く、この時期は入院中であることから、看護師が確認していく必要がある。

「膣感染症」、「排卵障害」などは症状が緊急性に乏しく、麻痺領域の疼痛、不快感、搔痒感など症状が欠如していることから放置される傾向がみられる。また、内診に対する羞恥心と、内診時の失禁に対する不安、さらに内診台への移乗困難(道木, 1999)なども受診行動の低下に影響していると考えられる。

今回の診断結果においては、良性の疾患がほとんどであったが、放置することで重症化することは容易に予測される。また、妊娠および出産を希

望する女性もいることから、女性脊髄障害者に対する産婦人科領域の対応が必要であることは明白である。月経、妊娠、出産、更年期などの生理的な現象が、健康に関わる重要な問題であるとともに、女性の健康保持には産婦人科における診断と治療が必要であることを、女性脊髄障害者および医療者に対して啓発していく必要がある。

また、設備の問題についてはリハビリテーション専門病院における産婦人科外来の設置、あるいは産婦人科を標榜している病院と連携するなどの対策が必要と考える。

2. 膣洗浄の効果

本研究から、膣感染症に対する膣洗浄の有効性が確認できた。抗生剤膣錠の使用についても初回のみであることから、抗生剤による菌交代現象を引き起こす危険性も少ないと考える。また、洗浄液として用いた希釈ポピドンヨード液(生理食塩液で50倍に希釈した10%ポピドンヨード液)は、粘膜面や開放創に対する禁忌がなく、膣炎に対する殺菌効果、および粘膜面への低刺激が報告されており(甲畑, 1997)、膣洗浄に適していると考えられる。洗浄方法については、内診台上で膣鏡を用いて膣内にガーゼを挿入する手技のため、婦人科受診が必要となるが、前述したように、脊髄障害者は婦人科受診に困難をとまなうことから、自己洗浄あるいは介護者による洗浄方法を確立していかなければならない。

自己洗浄方法として、トイレ、浴室、ベッド上で実施できるよう、介護用品の陰部洗浄ボトルの利用を検討したが、外陰部の洗浄しかできないため、市販のタンポンに洗浄液を染み込ませる方法、あるいは50 ml 浣腸器にネラトンカテーテルを取り付け、膣へ挿入し洗浄液を注入する洗浄器具など、自己洗浄にむけた方法を検討中である。

しかし、膣には自浄作用があることから、頻回に膣洗浄を実施するとかえって感染症を起こす危

険性が高くなり、本来の自浄作用を保持するべく指導が重要であると考え。

具体的には、陰部の清潔を保持する、尿漏れ、便失禁をコントロールする、抗生剤の安易な使用を抑える、など免疫力の高い健康な身体づくりに向けた指導が重要である。

また、今後は希釈消毒液による外陰部洗浄を定期的に実施することで、膣感染症に対する予防的効果についても検討していく必要がある。

V. 結論

女性脊髄障害者の産婦人科領域における健康問題に対する知識の普及ならびに、医療従事者の理解が重要である。また、脊髄障害者は膣感染症のリスクが高いことから、簡便な膣洗浄方法の確立および保健指導を確立していく必要がある。

謝辞

本研究の参加に快く応じて下さった対象者の皆様方、御家族の方々に心からお礼を申し上げます。また、研究へのご協力をいただいた国立身体障害者リハビリテーションセンター病院職員の皆様方、本研究への貴重なご指導をいただいた国立身体障害者リハビリテーションセンター病院、堀看護部長、岩谷力先生に深謝いたします。

文献

- 荒堀憲二, 2000, 生涯を通じた女性の健康づくり対策, 母子保健マニュアル第4版, 32-33, 南山堂
- 道木恭子, 福田幸子, 星出五十鈴, 1998, 脊髄損傷者の妊娠状況と出産における問題点の把握, 第10回日本リハビリテーション看護学会集録
- 道木恭子, 牛山武久, 古谷健一, 2003, 脊髄損傷者の妊娠・出産に関する保健指導, 日本脊髄障害医学会雑誌, 16, 182-183
- Fine M., 1988, Women with disabilities, essays in psychology, Culture and Politics, Philadelphia (PA), Temple University Press, 1-37
- 長谷川明ら, 1995, 頸髄損傷の妊娠分娩の1例, 産婦中四会誌, 44, 74-78
- 井口登美子ら監修, 2003, 女性の身体と心, ウィメンズ・メディカ, 小学館
- 石松順嗣ら, 1997, 高位脊髄損傷者の妊娠分娩の1例, 周産期医学, 27, 573-576
- Jackson B., 1999, A Multicenter study of Women Self-Reported Reproductive Health After Spinal Cord Injury, Arch Phys Med Rehabil, 80, 1420-1428
- 木元康介ら, 2003, 男性, 女性脊髄損傷者の性機能障害に関するアンケート調査, 脊椎脊髄, 16 (10), 1996-1004
- 甲畑俊郎ら, 1987, グラム陽性および陰性細菌 28 種と酵母 1 種菌に対するポビドンヨードの殺菌効果, 化学療法の領域, 3 (9), 133-139
- 真木正博, 1992, 婦人科疾患症候学, 婦人科学, 59-76, 南江堂
- 百瀬均ら, 1998, 性機能障害とその対策, 排尿障害プラクティス, 6 (4), 293-299
- Nosek H., 1997, Breast and cervical cancer screening among women with disabilities, Arch Phys Med Rehabil, 78 (5), 39-44
- Verduin W.H., 1986, Spinal cord injury women pregnancy and delivery, Paraplegia, 24, 231-240
- Waxman B.F., 1994, Women with physical disabilities, achieving and maintaining health and well-being, Baltimore (MD), Paul H. Brooks Publishing Co, 179-187
- Westgren N., 1993, Pregnancy and delivery in women with a traumatic spinal cord injury in Sweden 1980-1991, Obstet Gynecol, 81, 926-930
- 吉田雅代ら, 2003, 二分脊椎を有する女性の妊娠と分娩, 産婦人科の実際, 52 (10), 1509-1513